

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.45 ◇◆  
2012年5月31日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
  - ・公益社団法人 京都市児童館学童連盟
  - 平成24年度 第2回 京都市児童館・学童保育所職員研修会「安全指導・安全管理」
  - 安全教育の第一歩は何か？－社会性と自尊心の育成－ 参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
  - ・国の取組み情報
  - ・イベント情報
4. 今月のキーワード  
「化学的去勢」

◆◆◆◆

新緑の季節となりました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか？さわやかな風がふきぬける一方、竜巻や雹などによる被害のニュースも聞かれた今月。一方で、東京スカイツリーのオープンなど、わくわくするようなニュースもありました。その一つが、全国各地で観測された金環日食でしょう。子どもと一緒に見るのができた！と、喜ぶ声も聞かれました。

喜ばしいことと言えば、8日、東京都豊島区が、WHO協働センターが推進するセーフコミュニティの国際認証を取得することが決定したとの報道がなされました。国内では5番目となります。また、2月に取得した長野県箕輪町では、12日に認証式典・祝賀会を開催しました。箕輪町は、日本の町村では初めて認証を取得した自治体であり、豊島区は、東京のような大都市では初めてとなります。

当領域は犯罪からの子どもの安全をテーマとしていますが、関係者の協働や根拠に基づく対策の重要性という観点は、セーフコミュニティの掲げる指針にも通じるものです。領域を立ち上げた平成19年当時には、根拠に基づく対策の重要性を日本で認知・普及することは難しいのではないかとという声もありました。

セーフコミュニティに注目する自治体がいくつもある今の状況から、具体的な事例を積み重ねていくことの重要性を感じます。当領域で推進するプロジェクトが、根拠に基づく犯罪予防の事例となり、拡がっていくことが期待されます。

喜ばしいことと言えばもう一つ。当領域では昨年度より、プロジェクト実施者をイベントの講演者としてご紹介する「全国キャラバン・講師紹介」を行っています。WEB上でご案内しているだけで、認知度も低かったこの取組み。この度、この制度をご利用いただいた初のイベントが開催されました。ありがとうございます！

児童館や学童保育所の職員向け研修会が京都市内で開催され、「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクト

ページ(1)

の小泉令三代表が講師を務めました。その様子を、レポートでお伝え致します。

最後に、先月号のメルマガでお伝えしたソーシャルゲームの「ガチャ」について。消費者庁が18日に、「コンプリートガチャ」については景品表示法に抵触するとの判断を公表しました。グリーやDeNAなどソーシャルゲーム運営大手6社は、全面廃止にすると発表。収益の占める割合が多いのではと、株価下落の報道もありました。一方で、代替の仕組みが打ち出されているとの報道もあり、今後も推移を見守る必要があります。

---

## 1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

---

今月のプロジェクト及び領域の動きをご紹介します。  
まずは、プロジェクトから。

「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトでは、6月2日・3日に、プロジェクトの取り組みの一環として、メリーランド大学特別支援教育学部のPeter Leone教授による「特別セミナー— アメリカの障害をもつ少年の矯正教育に学ぶ —」を開催します。

詳細とお申込みはこちらから  
<http://www.as-japan.jp/seminar/>

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトでは、今年度第1回目となる全体調整会議を実施しました。成果の集大成と言える「防犯まちづくりのヒントとガイド」。協働する地域の方々によるモニタリング結果を踏まえて、来月には完成版をWEBにアップしたいとの意気込みが伝わってきました。

また、本プロジェクトの主要実施機関の一つであるNPO法人岡崎まち育てセンター・りたが、第1回まちづくり法人国土交通大臣表彰「まちづくりの担い手サポート部門」国土交通大臣賞を受賞しました。

第1回まちづくり法人国土交通大臣表彰受賞者の決定について  
[http://www.ml.it.go.jp/report/press/toshi05\\_hh\\_000064.html](http://www.ml.it.go.jp/report/press/toshi05_hh_000064.html)

その他、今月5日付の産経新聞には、安全マップづくりに関する記事が掲載されました。こちらも是非ご覧下さい。

プロジェクトトピックス  
[http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/t\\_yamamoto.html](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/t_yamamoto.html)

「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトでも、プロジェクト実施者会議を開催しました。領域アドバイザー2名がサイトビジットし、実証実験の結果報告と、それに関する全体討論などが実施されました。

続いて、領域の動きです。領域会議を開催し、3月に終了した「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクトによる成果報告や、秋に開催予定の領域の集大成となるシンポジウムについて議論を行いました。

シンポジウムについては、詳細が決まり次第、メルマガでもお知らせする予定です。

---

## 2. 犯罪からの子どもの安全レポート

---

- 平成24年度 第2回 京都市児童館・学童保育所職員研修会「安全指導・安全管理」  
安全教育の第一歩は何か？—社会性と自尊心の育成—  
2012年5月14日 ひと・まち交流館 京都（京都府京都市）  
主催：公益社団法人 京都市児童館学童連盟

古の都、京都で、児童館・学童保育所等の職員の危機管理意識向上をねらいとした研修会が行われました。当領域関係者を講演者として紹介する「全国キャラバン」の講師紹介という仕組みを通じ、「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクト代表の小泉令三氏（福岡教育大学 教授）が講師を務めました。

研修会冒頭の主催者側の挨拶で、中川一良氏（京都市児童館学童連盟 常務理事、健全育成・子育て支援統括監）は、「1番大切なのは子どもたちの安全。子どもを元気に家に帰してあげること。これが日々大切にしなければならない活動の原点。」と述べられました。

児童館や学童保育所等においても、子ども同士のトラブルから事故等が発生する場合があります。こういったトラブルを未然に防ぐためにも、子どもたちの社会的能力（対人関係能力）を育むことが大切です。

「子どもの頃にコンビニやスーパーを使ったことがありますか？」小泉氏から、こんな問いかけがありました。子ども達は、買い物でのお店の人のやりとりといった日常場面を通じ、地域社会の中で社会性を身につけていきますが、他者との関わり方も変化してきた現在、子どもの社会的能力を意図的に育成する必要があるのではと小泉氏は指摘します。

こうした背景を踏まえ、社会的能力を育成するために、小泉氏が代表を務めるプロジェクトでは、SEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 abilities at the school) という、学習プログラムの開発を進めています。

従来の教育では、子ども達に正しい知識を付与することを目指してきました。しかし、それだけでは、困った場面に直面した時にどんな風に行動すれば良いのかわかりません。そこで、このプログラムでは、具体的な手法を事前に学習して、社会的能力を育て、更には、自分を大切にすること（自尊心）を高めることを目指します。知識とスキル、その両者が揃って初めて、子どもの安全につながるということです。

実際に、トラブル解決のための4ステップという手法の事例が紹介されました。ある中学校で、この手法を盛り込んだ授業を実施。その前後を比較しました。その結果、問題が起きても自分達で解決出来るようになり、先生が介入することが減りました。クラス間の比較でも、授業を実施していないクラスに比べ、クラスの満足度の高さが確認されたとのこと。

会場でも、社会的能力を育てるための手法を体験しました。自分の身体になぞらえた人形をノートに描き、自分の好きなところに○をつけ、それをヒントに自己紹介をします。自己紹介が苦手な人を助ける手法です。実際に体験し、スムーズに自分のことを相手に伝えられたように思います。

終盤、来場者から「うまくいかないと、お友達を叩いてしまう子がいる。どうしたら良いか。」という質問がありました。小泉氏は、自己の感情への気付きを促す「心の温度計」という手法を伝え、「自己への気付きと問題解決のためのコツを伝えるのがポイント。」と回答しました。「こうしなさい」ではなく、そのためにどうするかを丁寧に伝え、うまくいった時には褒めることが大切だそうです。

児童館や学童保育所等、さまざまな団体からの参加があったこの研修会。予想をはるかに超える参加者数だったそうで、皆さんの真剣に講義を受けていた様子が印象的でした。

SEL-8S及びプロジェクトに関心を持たれた方は、こちらをご覧ください。  
「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」  
[http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/r\\_koizumi.html](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/r_koizumi.html)

(領域担当 S・T)

---

### 3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

---

#### 【更新情報】

#### ●国の取組み

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター開設・運営の手引について（内閣府）  
[http://www8.cao.go.jp/hanzai/kohyo/shien\\_tebiki/shien\\_tebiki.html](http://www8.cao.go.jp/hanzai/kohyo/shien_tebiki/shien_tebiki.html)

少年非行等の概要（平成23年1～12月）（警察庁）  
<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/syounennhikoutounogaiyou.pdf>

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会（東北・北海道地域懇談会）  
ページ(3)

配布資料等（総務省）  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/kenkyu/ict-machi/index.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/ict-machi/index.html)

平成20年改正少年法等に関する意見交換会（第3回）（法務省）  
[http://www.moj.go.jp/keijij1/keijij12\\_00053.html](http://www.moj.go.jp/keijij1/keijij12_00053.html)

学校安全の推進に関する計画について（文部科学省）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/anzen/1320286.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1320286.htm)

第1回まちづくり法人国土交通大臣表彰受賞者の決定について（国土交通省）  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi05\\_hh\\_000064.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi05_hh_000064.html)  
「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトの実施主要機関の一つが受賞しました。

その他の取組みについてはこちら  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

## ● イベント情報

6月2日・3日  
特定非営利活動法人アスペ・エルデの会  
アメリカ・メリーランド大学 Peter Leone博士特別セミナー  
「アメリカの障害をもつ少年の矯正教育に学ぶ」  
「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトの  
取り組みの一環として開催されます。  
<http://www.as-japan.jp/seminar/>

6月9日・11月17日  
公益社団法人日本心理学会  
「公開シンポジウム 社会のための心理学シリーズ  
犯罪と被害防止に貢献する心理学（京都6月・東京11月）」  
プロジェクトの実施者が登壇します。  
[http://www.psych.or.jp/event/index.html#1\\_hanzai](http://www.psych.or.jp/event/index.html#1_hanzai)

6月17日・7月22日、他  
日本市民安全学会、警察政策学会  
「区民のための実践的安全創造講座 “としま塾パートⅡ”」  
<http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/20120415safecommunity.doc>

その他のイベントについてはこちら  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>

---

## 4. 今月のキーワード

---

「化学的去勢」

今月のキーワードは、お隣の国、韓国のニュースから。

韓国では今月、13歳未満の児童複数に性的暴行を加えた40代男性に対し、性衝動を抑制する薬物治療命令を下したと、メディアが報じました。性犯罪者を法律違反者のみならず、患者として治療するという考えの下、認知行動療法なども並行して行われる化学的去勢。現在、米国、スウェーデンなどで実施されています。

韓国では昨年7月に「性暴力犯罪者の性衝動薬物治療に関する法律」が施行され、今回が初めてのケースとのこと。前立腺がんなどの治療に使用される薬剤を投与して男性ホルモンを調節し、一定期間、性欲自体を抑制するといいます。対象者は、3カ月ごとの投与と6カ月ごとのホルモン定期検査を受けるそうです。

韓国では、小学生が性暴力を受けて殺害された事件を受けて、性犯罪者にGPSを内蔵した足輪を装着させて居場所を把握できるようにするなど、性犯罪に対して様々な取組みを実施しています。化学的去勢の対象者に対しても足輪装着をはじめ、託児施設立ち入り禁止や夜間外出制限などを行う方針とのこと。

これらは加害者への対策ですが、韓国では性犯罪被害者を支援する取組みにも力を入れており、ワンストップ支援センターがよく紹介されます。日本でも設置する動きがあるこのセンター。今月、内閣府のWEB上に、「性犯罪被害者ワンストップ  
ページ(4)

支援センターの開設・運営の手引き」や、その作成に当たって実施した海外事例の聞き取り調査報告書がアップされました。

内閣府共生社会政策・犯罪被害者等施策  
<http://www8.cao.go.jp/hanzai/>

性犯罪被害者への治療、カウンセリング、法律相談などの支援や被害の届出、捜査を一カ所で一度に行うことで、被害者の負担を軽減し、被害申告をためらわずに行えるようにしようという試みから生まれたこのセンター。

日本でも、2010年4月に民間団体が運営する「性暴力救援センター・大阪（通称・SACHICO）」が、同年7月には国のモデル事業として「ハートフルステーション・あいち」が開設しましたが、韓国では全国に16箇所（2010年現在）設置されています。

化学的去勢やGPSの足輪などは反対の意見があるのも事実であり、課題も含め、同じアジアの国として、これらの取組みは参考になるのではないのでしょうか。

\*\*\*\*\*

#### 「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

[c-info@anzen-kodomo.jp](mailto:c-info@anzen-kodomo.jp)

■発行日 2012年5月31日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>

\*\*\*\*\*